

# 実践のまとめ (第2学年 外国語科)

授業公開日 令和7年11月20日(木) 第5校時

指導者 上越市立城東中学校

教諭 吉川 遥

## 1 研究テーマ

### Target Sentenceを活用して、自己表現につなげられる生徒の育成

## 2 研究テーマについて

### (1) テーマ設定の理由

中学校学習指導要領(平成29年3月告示)の第2章、第9節、外国語、目標では、

#### (5) 書くこと

イ 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を書くことができるようにする。

と掲げられている。また、内容〔思考力、判断力、表現力等〕(2) 情報を整理しながら考えなどを形成し、英語で表現したり、伝え合ったりすることに関する事項では、

イ 日常的な話題や社会的な話題について、英語を聞いたり読んだりして得られた情報や表現を、選択したり抽出したりするなどして活用し、話したり書いたりして事実や自分の考え、気持ちなどを表現すること。

と掲げられている。これらのことから、「書くこと」においては、まとまりのある英文を書けるようになるために語句や文法習得の機会や、事実や自身の考えを整理する手段や手法が必要であると示唆される。

該当学級である2年4組では、これまでの授業において、文法事項の指導を教科書内容とは切り離し、1～2時間かけて独自のワークシートを用いながら文法事項の習得に力を入れて学習を進めてきた。校内まとめテスト実施後の振り返りの記述によると、英語の授業に対する意欲が高く、文法事項を学んだり、活用したりする楽しさを感じている生徒が多いことがわかった。一方で、まとまりのある英文を書く課題であった「第1回にいがた学びチャレンジ教材」実施後の独自アンケート「この課題でわからなかったことは何か」では、「単語がわからない」「文法がわからない」「テーマに対する自分の回答が思い浮かばない」といった回答が多く、語句や文法の定着と、テーマを意識した言語活動の経験が不足していることが課題であることがわかった。この実態を踏まえ、段階的に「書くこと」の活動を設定し、語句や文法の定着と表現力の育成を両立させることが必要である。そこで、本研究では、教科書のScenesなどをTarget Sentenceとして設定し、段階的な指導を踏まえて、自己表現に応用できる生徒の育成をテーマとした。また、「テーマに対する自分の回答が思い浮かばない」という回答と、上記で引用した「書くこと」の目標に着目し、本研究を通して、まとまりのある英文を書けるようにするために、事実や自身の考えを整理し、表現する手段や手法を学ぶ機会にもつなげたい。

### (2) 研究テーマに迫るために

#### ① Scenesの活用

教科書各単元の文法の導入であるScenesの文をTarget Sentenceとし、指導の軸とした。「聞く

こと」→「話すこと①」→「書くこと①」→「話すこと②」→「書くこと②」の流れでTarget Sentenceの活用を図っている。「聞くこと」から「書くこと①」までにTarget Sentenceの暗唱、書き起こしを定着させる。「話すこと②」と「書くこと②」では、Target Sentenceで定着した表現を用いて、生徒自らが自由に場面設定をし、教科書Scenesと同じように登場人物が2人のオリジナルストーリーを作成する。この活動を通して、確実な知識の定着と、使えるようになった知識を活かして、自身の考えを表現できる生徒を育成したい。

## ② いがた学びチャレンジ教材の活用

テーマを意識した「書くこと」に関わる活動として、また、Target Sentenceに関わる生徒自身の学びの積み重ねを図るものとして、「いがた学びチャレンジ教材」を活用している。課題に取り組む際、「相手意識」の視点をもった英作文の構成や、「目的・場面・状況」の読み取りを、生徒同士の対話で気付かせ、生徒に自信をもって作文に取り組ませたい。また、本教材への取組の中で、生徒が授業での学びの成果を振り返る時間を設ける。記述内容や振り返り内容を本研究前後で比較し、生徒自身の学びの深まりを確認する機会としたい。そして、本教材をはじめとした、テーマを意識した言語活動に意欲的に取り組める生徒を育成したい。

## 2 単元と指導計画

### (1) 単元名

Program6 “High-Tech Nature” (Sunshine English Course 2 開隆堂)

### (2) 単元の目標

- ① 様々な比較表現を使って、物事の大きさや程度などを比べ、表現できる。
- ② 教科書本文を読んで、生物をヒントにして作られたものについて理解できる。
- ③ 自分が取り組んでいる環境保全対策について、まとまりのある英文で伝えることができる。

### (3) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①物事の大きさや程度などを比べる時、比較表現を使って表現することを理解している。 ②伝えたい内容について、接辞などを正しく用いた比較表現を使用している。	① 身近な環境保全への取組について伝えるために、自分の意見を既習の文を活用して表現している。 ② メール文として、相手意識をもった文の構成について理解し、表現している。	身近な環境保全への取組について伝えるために、新出単語やTarget sentenceを覚え、活用しようとしている。

### (4) 単元の指導計画と評価計画 (全 10 時間)

時数	目標	○学習内容	評価規準
第1時	比較級の使用について理解する。	○ミキとトムから届いたメールを確認し、単元の最終目標を確認する。 ○教科書Scenes1を聴く。 ○教科書Scenes1をペアで音読する。 ○教科書Scenes1を何も見ずに書き起こす。 ○比較表現「比較級」の使用を学ぶ。	記録に残す評価は行わず、行動観察やワークシートなどから学習状況を見取る。

第2時	最上級の使用について理解する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教科書Scenes2を聴く。</li> <li>○教科書Scenes2をペアで音読する。</li> <li>○教科書Scenes2を何も見ずに書き起こす。</li> <li>○比較表現「最上級」の使用を学ぶ。</li> </ul>	
第3時	同級の使用について理解する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教科書Scenes3を聴く。</li> <li>○教科書Scenes3をペアで音読する。</li> <li>○教科書Scenes3を何も見ずに書き起こす。</li> <li>○比較表現「同級」の使用を学ぶ。</li> </ul>	
第4時	Scenesを活用してオリジナルストーリーを作る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○Part1～3の重要単語を確認する。</li> <li>○Scenesのまとめとして教科書Scenesと類似した場面設定で4コマ漫画を作成する。</li> <li>○つくった4コマ漫画を仲間に紹介する。</li> </ul>	
第5時 (本時)	身近な環境保全について、まとまりのある英作文が書ける。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○Scenesの復習を行う。</li> <li>○ミキとトムへのメールの内容を再度確認し、身近な環境保全に関するSDGsの取組について、意見文を作成する。</li> </ul>	記録に残す評価は行わず、行動観察やワークシートなどから学習状況を見取る。
第6時	動植物が生活に与えるヒントについて知る。①	<ul style="list-style-type: none"> <li>○Part1の読解を行う。</li> <li>○ペアで繰り返し音読をする。</li> <li>○1人で繰り返し音読をする。</li> <li>○Q and Aに取り組む。</li> </ul>	
第7時	動植物が生活に与えるヒントについて知る。②	<ul style="list-style-type: none"> <li>○単語と基本文テストを行う。</li> <li>○Part2の読解を行う。</li> <li>○ペアで繰り返し音読をする。</li> <li>○1人で繰り返し音読をする。</li> <li>○Q and Aに取り組む。</li> </ul>	<b>知・技</b> 新出単語と基本文が書ける。【単語テスト】
第8時	動植物が生活に与えるヒントについて知る。③	<ul style="list-style-type: none"> <li>○Part3の読解を行う。</li> <li>○ペアで繰り返し音読をする。</li> <li>○1人で繰り返し音読をする。</li> <li>○Q and Aに取り組む。</li> </ul>	記録に残す評価は行わず、行動観察やワークシートなどから学習状況を見取る。
第9時	環境保全について、まとまりのある英作文が書ける。②	<ul style="list-style-type: none"> <li>○メールの内容を再度確認する。</li> <li>○教科書で学習した人間も動植物も安心して過ごせる環境、という視点を取り入れながらも一度英作文を作成する。</li> </ul>	
第10時	パフォーマンステストで、時間内に自分の伝えたいことを表現する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○パフォーマンステストとして、「ミキとトムへのメールの返信」というテーマの英作文に取り組む。</li> </ul>	<b>思・判・表</b> 環境保全対策について、まとまりのある英文で伝えることができたか。【パフォーマンステスト】

後日		○該当Partの音読テストを家庭学習で行う。 ○にいがた学びチャレンジ教材の実施	<b>知・技</b> まとまりのある英文を読むことができる。 <b>【動画による提出】</b>
----	--	---	---

(5) 教材観

これまでの単元で、カナダの自然保護を表すフレーズや、動物の働きによって守られている自然について学んだ。本単元では、動植物の働きによって得られる生活のヒントについて学ぶ。また、本文の” We can learn a lot from plants and creatures.” という文に着目し、「動植物と人間がともに暮らせる環境づくり」について考える。カナダについて学び、総合学習でSDGsを学習した学級として、本単元の最終目標は、「カナダのバンフ国立公園でのSDGs活動について知り、身近な環境保全対策についてメールで伝える」とした。

4 本時の展開

(1) 本時の目標

身近な環境保全について、まとまりのある英作文が書ける。

(2) 本時の展開

時間 (分)	学習活動	◎教師の働き掛けや支援 ・予想される児童(生徒)の反応	□評価
導入 (10)	①Scenesにかかわる活動を行う。(聞く➡読む➡書く)	◎既習事項として、言葉をつまらせずに暗唱したり、記述したりできているか机間巡回する。	
展開 (35)	②ミキとトムから届いたメールについて確認する。	◎場面設定がされている中で、相手が求めている情報が何か読み取れるよう声掛けをする。	
	ミキとトムに、日本の環境保全対策について説明しよう！		
	③返信内容について英作文する。 ④身近な環境保全について考える。 ⑤返信内容を再考する。 ⑥英作文を完成させる。 ⑦ペアやグループで英作文を見せ合う。	◎既習事項の活用に着目し、教科書を参考にしよう伝える。 ・メールだから導入の挨拶が必要だ。 ・以前学習した導入➡展開➡まとめの流れが使えるそうだな。 ・scenesのフレーズをアレンジできそうだな。 ◎Target Sentenceの表現を確認する。 ・the most popularというフレーズを、the most importantに変えれば使えるそう。	<b>思・判・表</b> 自分が取り組んでいる環境保全対策について、まとまりのある英文で伝えること

			ができたか。【ワークシート】
振り返り (5)	⑧学びのまとめを行う。	・仲間から学んだことや、ミキとトムのメール内容から、自己の英作文を見つめ直す。	自己の英作文をよりよくしようと活動に取り組んだか。 【行動観察】

### (3) 板書計画



## 5 研究テーマに関わる評価

- (1) 「第1回にいがた学びチャレンジ教材」での英作文課題において、校内まとめテストなどで低位層だった生徒の多くが、語数を増やしたり、Target Sentenceを活用したりした文を書けるようになる。
- (2) 「第3回にいがた学びチャレンジ教材」後に行う生徒のアンケート「2学期を通してできるようになったこと、前より困り感が減ったこと、今も困っていること」について、「書くこと」に対する肯定的な記述が増える。

## 6 成果と課題

### (1) 成果

研究テーマに関わる評価について

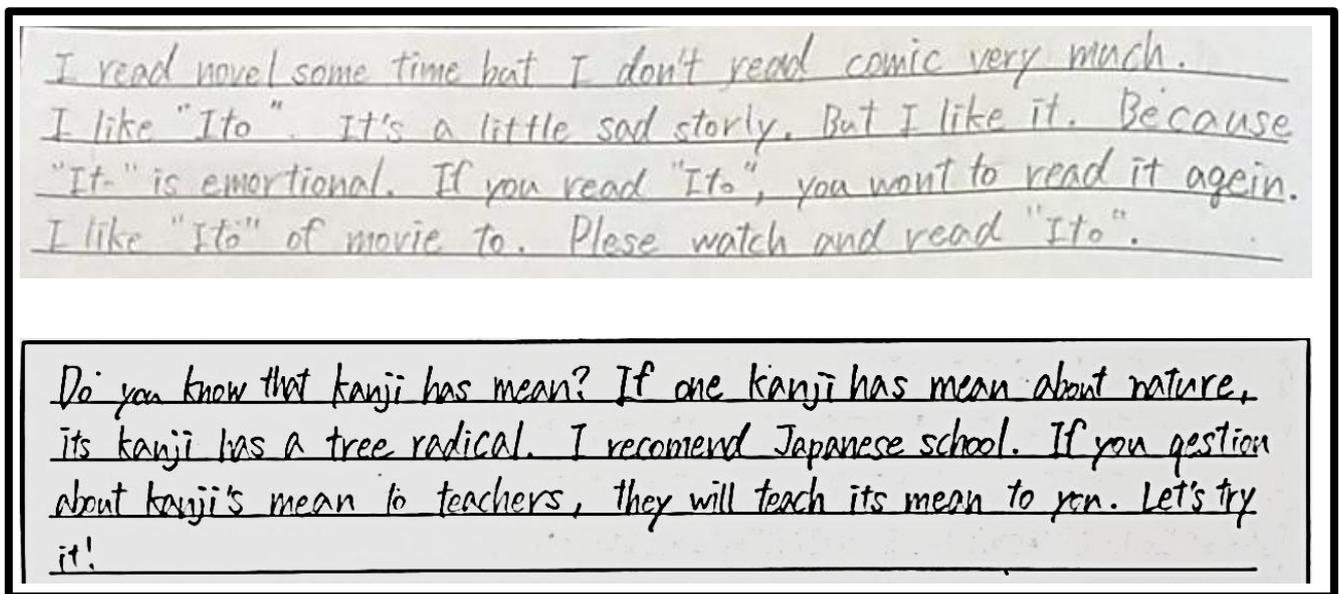
本研究のまとめとして、該当学級で「第3回にいがた学びチャレンジ教材」を実施した。抽出生徒の回答は、図2から図7の通りである。各図の上部が第1回”What novel or comic do junior high school students in Japan like?”の回答、下部が第3回”I want to know how to learn kanji.”の回答である。抽出生徒の回答を見ると、文法やスペルのエラーは多少あるものの、Target Sentenceであったhave toやmust使った表現が多くみられる。また、生徒Gや生徒K記述に見られる”Do you know~?”を使った問いかけから始める英作文や、生徒G生徒IのLet’s~.”で締めくくる表現が多くの子の記述に見られた。

「第3回にいがた学びチャレンジ教材」実施後のアンケート「2学期を通してできるようになったこと」では、以下のような記述が見られた。図1から図6を分析しながら、本研究の成果と課題について後述する。

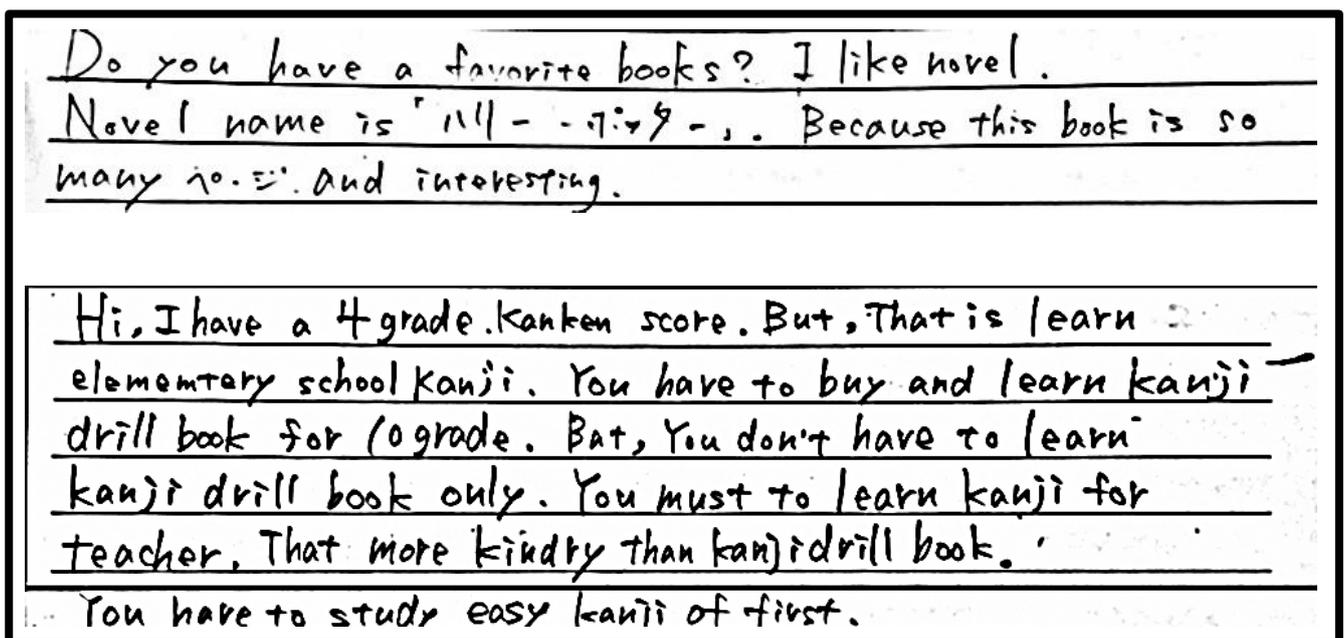
生徒 (様々なテストの評価平均)	2学期を通してできるようになったこと
生徒 A (評価 S)	文の構成がだいたい思いつくようになった。
生徒 B (評価 A)	わかる言葉を繋げて一応文が作れるようになった。
生徒 C (評価 B)	構文で書くから文の構想を迷わなくなった。
生徒 D (評価 B)	must や how to とかの表現がすぐに覚えられていたこと。
生徒 E (評価 C)	must で文が書きやすくなった
生徒 F (評価 C)	とりあえずなにかしら書けるようになってきた

(図 1)

これらの記述から、生徒にとって本研究が「書くこと」に自信をもって取り組めたり、「書くこと」への抵抗を減らしたりすることへ一定の成果を得ることができたと推察される。



(図 2 生徒 G の記述)



(図 3 生徒 H の記述)

Japan junior high school students likes comic. Because comic is so many pictures but novel is not picture so we can <sup>each</sup> read comic. But I like novel. My favorite novel is "Cold moon" because first picture is so beautiful and interesting. We read novel difficult but comic is easy. If you like book, read comic and novel.

I like learn kanji. I learn kanji only at school so I learn kanji at school use kanji drill book. Kanji drill book is so useful. If you can read and write only 10 kanji you can try easy grade for kanken. But you need learn many kanji. You use kanji drill book and kanji print many practice write and say voice read. Lets try kanken!

(図3 生徒Iの記述)

I like Saiyuki. This is special monkey travel the world. This book is so interesting. I like monkey because he is cool and strong so I like he. Maybe other person like it.

I think goodest learn kanji thing is kanji drill book. If you play a lot of kanji drill book, you know about kanji. You have to try easiest kanken.

(図4 生徒Jの記述)

第1回では、作文ができなかった

Do you know kanji drill book?  
You don't must write Japanese character.

(図5 生徒Kの記述)

第1回では、作文ができなかった

which grade is good for me? A. I don't know kanken.  
Do you learn kanji only at school? A. yes, I do.  
Do you learn kanji only from kanji drill books?  
A. yes, I do

(図6 生徒Lの記述)

### ① Target Sentence の活用を通じた語句、文法の習得について

生徒 B, D, E の記述から、Target Sentence を軸とした「書くこと」の指導が生徒にとって一定の効果があつたことがわかる。これは、繰り返し読みだり暗唱しようとしたりすることで、音として Target Sentence を捉えられるようになり、書き起こしを行う際に、文字と一致させることができるようになってきたことを示唆している。今後は、生徒が、音として「覚えている」「思い出せる」自己表現から、どのような場面で、どのような文法が活用できるかを選択できるようになり、Target Sentence からより広がりを持たせられるように、活動を工夫していきたい。

### ② テーマを意識した言語活動について

生徒 A, C, F の記述や、生徒 G, I, K の回答から、生徒が「書くこと」や「話すこと（発表）」の活動において、相手意識を持った、まとまりのある英文を表現するために、どのような構成が活用できるか、選択できる力を身に付けてきたことがわかる。授業では、まとまりのある英文を作成する活動の際、学級で、どのような書き出しが相手にとって興味を引いたり、読みたくなったりするか、文の締めくくりとしてどのような表現がふさわしいかについて都度話し合い、黒板を使って共有してきた。次第に、生徒が自主的に共有内容をタブレットで撮影し、Google Classroom への投稿で全員が確認できるようになった。このことから、多くの生徒が、学級全員で目標に向かって自身の書く力を高めようとしていたと考えられる。今後は、「構文」などと称した、教師から使う文法を指定した形式的な自己表現から、生徒自身が伝えたいことを第一とした自己表現について、より多くの選択肢や考えを生みだせる活動や、雰囲気をつくっていききたい。

## (2) 課題

### ① 目的や場面、状況を考える設定と思考ツールの活用

本研究では、Target Sentence を活用し、「書くこと」における自己表現ができる生徒の育成を目指してきた。生徒の様子から、活用できる表現や文の構成などを理解することができるようになったが、テーマに沿った内容を考えることが難しい様子であった。授業を振り返ってみると、文構造を型として身に付ける活動と、テーマに沿って自己表現する活動の間に、そのテーマについて目的や場面、状況を生徒が捉え、深く考える活動が不足していることがわかった。今後は、マインドマップをはじめとした様々な思考ツールを生徒に提示し、生徒が自分に合った思考ツールを活用できるような場を設定し、必要に応じて生徒が自分の思考を整理できるようにしたい。さらに、仲間と考えを伝え合ったり、知らないことを尋ねたりして、自己表現する際の考えが深められるようにしたい。

### ② 親和性のある雰囲気づくり

英語の授業では、4 技能（5 領域）を身に付けるにあたって、教師の指示や声掛け、それぞれの活動に緩急をつけることが大切だと感じた。本研究では「書くこと」にいたるまでの語句や文法の定着、テーマを意識した言語活動に着目したが、まずはそれらの活動に対する教師の声掛けや姿勢、生徒へ望む姿を伝え、生徒全員が目標に向かって学ぼうとする雰囲気づくりが大切だと学んだ。そのためには、単元の目標に付随して、学級の実態に応じた目標の設定が有効であると感じた。例えば、「相手に体を向けてペアトークをする」や「仲間が困っていたら声を掛ける」などである。また、教師自身も英語学習における「正しさ」ばかりを重視するのではなく、生徒の学ぼうとする姿勢を認めることから始め、生徒が自信をもって学び合える雰囲気をマネジメントしていく必要があると感じた。